

法政大学

社会学部

社会学科

キャリア教養学科 (桜の聖母学院高校出身)

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

当初から編入を目指して桜の聖母短大に入学しました。高校時代は大学での学びが想像できず浪人をしようと思っていましたが、一度短大に通って編入をした方が、自分のやりたいことができると思ったからです。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。また、ガイダンスはいつ、どのような内容でしたか。

1年生の後期からキャリア教養特講を履修し編入の準備を始め、2年生の初めから毎月 TOEIC を受けていました。また、自分の研究内容の先行研究に関するものを中心に、書籍を読むことを心がけていました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年生の後期は英語力を上げようと、授業の他に週に1コマ高橋先生に時間をとっていただきご指導いただきました。キャリア教養特講では、三瓶先生に小論文のご指導をいただきました。志願理由書や面接については、多角的な視点から様々な意見をいただくために、梶谷先生や元井先生、事務室の岩本さんからもご指導いただきました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

一番力を入れたのは自分の研究についてです。先輩方の志望理由書を見ると研究内容が具体的かつ論理的であるのに対し「自分はまだ何も考えられていないな」と痛感し研究を深堀するようになりました。2年生からは、特に先行研究を調べることに力を入れていましたが、研究内容を具体的にできたのは出願ギリギリでした。後輩の皆さんには、早めに取り掛かることをお勧めします。

Q. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

小論文を書く上で必要な知識を身に付けられたことです。キャリア教養特講をはじめ、キャリア形成論など幅広い知識を身に付けられる授業があり、小論文を書く上でとても参考になりました。

Q. 先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

「とにかくやる」ということです。よく「この勉強方法でいいのか」と先生に相談をしていたのですが「何かやらなきゃ何も始まらないから、とにかくやる！」というアドバイスを受けて「悩むよりも行動しよう」と気持ちが前向きになるよう、背中を押していただきました。

Q. ①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①編入を目標に入学したので「絶対に編入合格しよう」と思っていました。

②短大の授業が楽しくって「短大って想像していたのと違うな」と思いました。

③「自分は大丈夫なのかな」とずっと不安でした。

④合格してホッとしていると同時に「もっと頑張らなきゃな」と思っています。

Q. これから桜の聖母短大に入学する、または桜の聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

何よりも早めの行動が大事だと思います。編入準備に早すぎることはありません。そして編入後は何をしたいのか常に意識しておくことが大事です。目標を見失わず頑張ってください。